

第4回 北海道水道広域化推進プラン策定に関する検討会 開催概要

日 時 令和2年10月13日（火）13時30分から15時00分

開催場所 道庁別館10階 企業局会議室

出席者（敬称略）

【構成員】

宇野 二郎	座 長	横浜市立大学国際総合科学群教授
構口 学	構成員	木古内町建設水道課長
谷川 竜也	構成員	谷川竜也公認会計士事務所代表
松井 佳彦	構成員	北海道大学大学院工学研究院教授
最上屋 知弘	構成員	札幌市水道局総務部企画課長
横山 浩丈	構成員	中空知広域水道企業団企業局営業課長

【オブザーバー】

海藤 孝夫	総合政策部地域行政局行政連携課主幹
安藤 直樹	総合政策部地域行政局行政連携課連携係長

事務局（環境生活部環境局環境政策課）

山田環境局長、松田室長、山内主幹、早川主幹、高橋補佐、鹿又主査、井上主査、
宮木主任

議 題

- 1 ソフト連携シミュレーションの実施方法（案）について

議 事

- 1 開会
あいさつ 山田環境局長

- 2 議題

- (1) ソフト連携シミュレーションの実施方法（案）について
資料1、2に基づき、事務局から説明

シミュレーションに関する各論

(1)薬品の購入

- スケールメリットがあるので連携効果はあると思うが、中心となって事務を担う自治体の負担を整理する必要がある。（構口構成員）

(4)水道メーター購入

- スマートメーターの導入による共同化の効果についても検証できないか。（構口構成員）

(8)企業会計システムの導入

- 更新時期が合えば同じシステムを導入することは可能だが、操作性の面などからシステムの変更は慎重にならざるを得ない。(構口構成員)

(10)各種計画の策定

- 直営職員を減らすことは理想だが、職員の能力を上げるため、また、災害対応能力を担保するため、各種計画の策定や工事の設計業務をあえて直営とする判断もある。(横山構成員)
- 各種計画をまとめて委託することでスケールメリットになるとあるが、対応できる事業者が限られるため、価格が下がらない可能性がある。(谷川構成員)

シミュレーションに関する総論

- 広域化の推進にあたっては維持管理上の責任の明確化や財政的なメリットの共有が重要。広域連携の効果や課題を把握し、住民の方々の理解を得る根拠としてシミュレーションを進めてほしい。(土岐構成員(書面による))
- 広域連携の推進にあたっては財政的メリットの共有が重要。また、災害時や事故時の対応や技術の継承の問題についても議論すべき。(谷川構成員)
- 共同化後の事務を担う自治体の事務負担が増えるので、役割分担と財政的なメリットを共有できるような広域連携になると良い。(横山構成員)
- シミュレーションの結果取りまとめにあたっては、連携効果のほか、手続的なもの、連携手法についても提言したほうが良い。(最上屋構成員)
- 広域連携を決める前段の検討に多くの時間と労力を要することから、市町村の参考となるよう、検討過程のボリュームを何らかの形で示せないか。(松井構成員)
- シミュレーションにはリアルさが必要。技術の継承の観点も踏まえ、委託化する部分と直営を維持する部分をどう考えるか、市町村へのヒアリングなどを通じ、水道の将来像を描いていく必要がある。(宇野座長)
- 共同化の効果だけでなく、検討過程に要する時間やコスト、アドバイザーコスト、共同化後の監理コストなどの上積みコストも見えるようにしておくべき。(宇野座長)
- 共同委託だけでは受注、発注双方のメリットが出ない場合、例えば施設運転管理業務における遠方監視システムの導入など、どのような手法との組み合わせであれば民間参入して事業が成り立つかの視点も必要。(宇野座長)

その他意見交換

- 広域分散の北海道においては管路を繋ぐようなハード連携は難しいが、遠方監視システムや企業会計システムといったシステムの共同使用も、いわば「デジタルハード連携」として、北海道型のハード連携として打ち出して良いのではないか。(松井構成員)
- 北海道においては、統合とは逆に、管路をつながない分散処理の方が低コストとなる場合も考えられる。ハード連携シミュレーションにあたっては、「デジタル連携」や、分散処理への移行など、新たな視点からも検討されたい。(宇野座長)

3 閉会